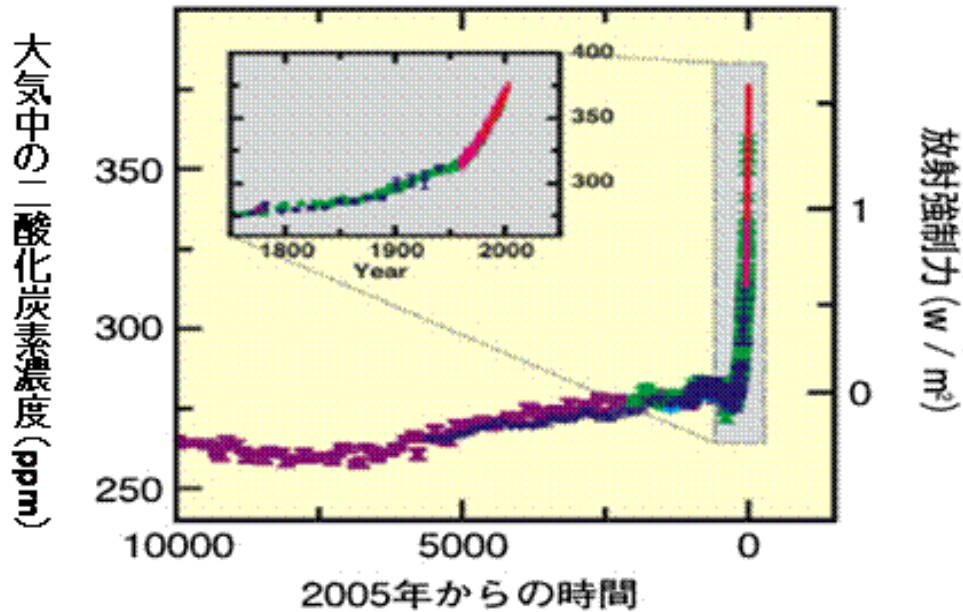
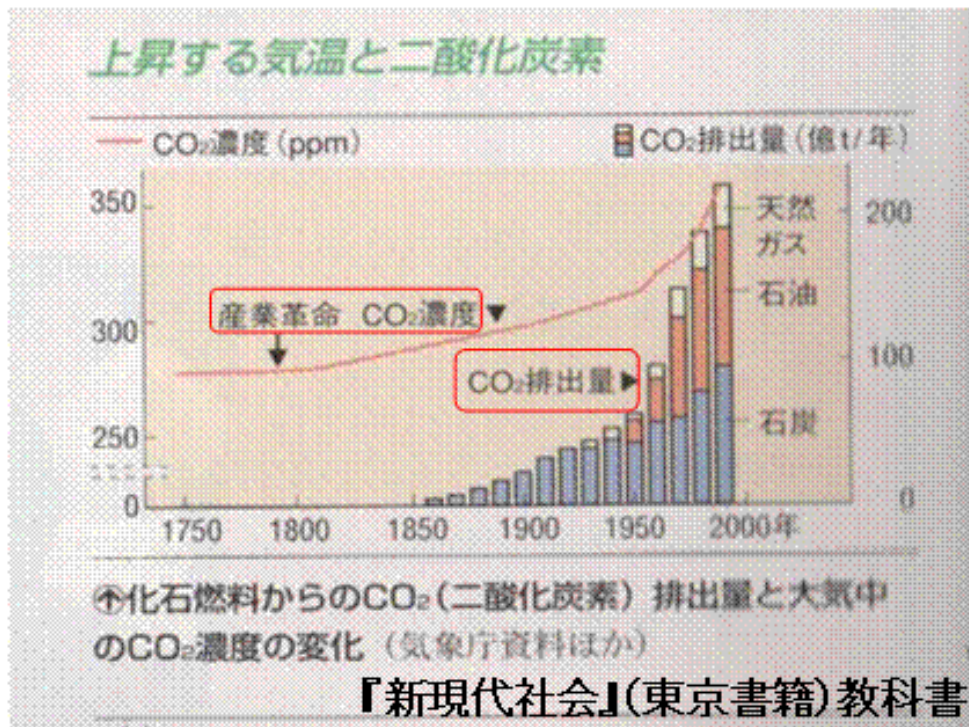


農耕文明が温暖化を招いた？



出典) IPCC第4次評価報告書2007

放射強制力: 単純化して言うと地球が太陽から受け取るエネルギーと、宇宙空間に放出するエネルギーの差を指標化したもの。この値が正になると地表付近は温まっていく。



Q なぜIPCCの報告を信頼できると判断するのか？

IPCC 報告書では、基本的に査読を経た多数の学術論文に基づいて、それらをさらに検討・引用する形で、現時点での科学的知見の総合的な評価が行われているため。

研究者が研究結果を論文として学術雑誌に発表する際には、通常2～3人の別の専門家(査読者)が匿名で論文の審査をする。(=論文の査読)

論文の書き方に不備はないか、論理展開や計算などが間違っていないか、過去の関連研究をきちんと踏まえているか、新しい重要な知見が書かれているか、などの観点から、査読者が論文を評価する。

IPCC 報告書は政策決定の参考になる情報を「査読論文」に基づいて総合的にまとめたもの。

[なお、IPCCにも関わったイギリスの研究者の一部は「クライメートゲート事件」を起こしており、信用できないという人もいるかもしれない。だが、[公的機関による調査の結果、不正の事実は何も見あたらなかった](#)。ウィキペディアは玉石混交だが、[この事件に関する記述](#)は出典も明記されており、よく調べてあるため、かなり信頼できる。]

さて、人為的温暖化説は単なる一仮説にとどまらない「合意」が形成されている。

まず、二酸化炭素などの温室効果ガスが、赤外線を吸収するという物理特性を持っていることは、科学的に確認されている。

そして、20世紀後半以降の気温上昇傾向を説明するためには「[温室効果ガスの増加を組み入れた気候モデル](#)」が有効で、温室効果ガスの増加を考慮せずにそれを説明することが不可能だということについても、ほぼ100%の科学的合意が成立している。

太陽光線はほとんどが可視光線と紫外線という形で地球に届き、地球の表面からは赤外線という形で放出される。[温室効果ガスによる赤外線の吸収がなければ\(赤外線がそのまま宇宙空間に放出されれば\)地表面の温度は計算上零下19度になる](#)。

従って、仮に温室効果ガスが全く存在しなかった場合、人類の存亡にも関わる影響があるが、現在の問題は、その増

加速度があまりにも早すぎ、増加量が多すぎることである。

参考文献

[『地球温暖化 ほぼすべての質問に答えます！』\(岩波ブックレット\)](#)

『地球温暖化の予測は「正しい」か？』(DOJIN 選書)

原子力産業に関わって

1、「人為的温暖化仮説」を原子力産業が利用したことは事実であるが、「原発は二酸化炭素を出さない」というのは嘘であり、ほとんどの環境運動家はそれを知っている。

確かに核分裂反応自体は二酸化炭素を発生させないが、原発が動くために必要な、燃料採掘・精錬・濃縮・核燃料の輸送、使用済み燃料の保管・輸送・処理など多くの過程で太陽光発電、風力発電、地熱発電とは比較にならないほど多くの二酸化炭素を発生させる。

電力 1kWあたりの二酸化炭素排出量は、天然ガスによる火力発電が443gに対して原子力発電は288gである。(『私たちの選択』アル・ゴア)

2、温室効果ガスの削減で全世界の温暖化対策をリードしているEUは、独自の科学者グループを結成して温暖化の危険性に関する試算を行い、共通見解に達している。EUの中には、原発を保有する国も、脱原発を決定した国もあるが、いずれも温室効果ガス削減の重要性について合意している。

二酸化炭素税や排出権取引など日本の経団連が「経済成長を妨げる」と主張していることさえ先進的に導入している国が多いことにも注意。

私自身、[これまでの二酸化炭素排出に責任のない次世代や、植民地支配などで押さえつけられてきた途上国に多くのリスクと被害が集中していくことは、大変な問題である](#) と考えます。

[なお、[基礎的な内容も含めたいいいスライド](#) (制作は環境省)がありました。よろしければご覧下さい。]

[ホームへ](#)